

# 時の動き

## 高齢者医療改悪に物申す

編集部 飯田 邦雄

### 後の四分の一を生きる

人の生涯年齢を百歳とした場合、筆者はすでに四分の三を生きてきたと言えます。だとすれば、棺桶に片足どころか半分以上突っ込んだ状態だということです。

### ところで、残りの人生は？

今年6月で77歳です。しかし、今後の人生をあきらめる訳にはいきません。15歳で労働者になった私はまさかこんな非道な社会になろうとは当時は考えられませんでした。老若を問わず労働者や生活者虐めを何食わね顔で推し進める現実の政治です。

### 消費税については後程自分の思うところを述べます。尤も心配なのは、医療費問題です。現在後期高齢者の窓口負担は一割です。それを一割に引き上げると自公政権が目論んでいます。

先日、年金の葉書が届きました。後期高齢者保険料と介護保険の年金からの引き落としが、年金額と共に通告されました。高齢者保険料は9万5600円、昨年一年間の窓口負担はドックを含めて9万8576円です。約20万円を医療費として支払ったことになります。単純に計算して二割負担になると30万円が医療で必要になります。併せて介護保険料7万6320円も厳

密には医療費と私は考えます。38万円が医療費負担になります。年金受給額は年間で236万9628円です。年金額の一割六分に当たります。医療費だけでも大変ですが、その他の公的負担として、住民税・所得税等々の負担も年金から引き落とされます。人生100年なんだな、と喜べない実態があり、さらには、老後資金の2千万円問題があります。

まさか消費税が10%とは

消費税が昨年10月から8%から10%に引き上げられました。15歳で労働者になった私のまさかは、この悪



税です。

確かに高度成長期には労働者も勘違いしていました。それは、この社会の仕組み、矛盾を産み出す仕組みにはあまり留意してこなかったことです。ところが現実には、私が労働者になった頃とは様変わりです。非正規労働者が2000万人を超え、全労働者の40

%になろうとしています。しかも200万円以下で働かされています。反面、資本は莫大な内部留保462兆円を溜め込む程に巨大化しています。格差拡大、富めるものと貧困層を産み出す矛盾の深化です。私の「まさか」とは、最初の導入時期で3%の消費税の狂暴さに気づかなかったことです。

その後次々と、時の政権は、財政不足を理由として、消費税が引き上げられてきました。その率が大幅になるほど消費税は逆進性が強いという事と、悪税である意味が社会の構図で分ります。山本太郎さんが、先の参院選で消費税をゼロにすると公約されたことはまったく正しく、同感です。しかし、労働者イジメ、生活者イジメの原因は何が理由だったのでしょうか？

**原因が分れば、反撃の条件も**  
主張はよく分るのですが、それを実現するための力が必要ではないか？

私も60数年の労働者生活で、少しは社会の仕組みを客観的に見る事ができますし、相談したり、討論などをしながら、考えることにしています。先日、東京東部労組の大新年会に参加させてもらいました。

来賓で参加されていた弁護士の方宮健児さんが大変参考になるご意見を述べられていました。「反貧困ネットワーク」の代表をされているのですが、社会的貧困をはねのけ、金持ちや資本家の横暴を許さない力は、かつて総評が存在した時のように、労働組合がその役割を担っていると、述べられました。これだけ格差が広がってくると原因は明らかです。労働組合の再生に全力を挙げるべき、ということでした。私の思いはもう一つあります。単なる労働組合再生でなく、労働者の立場に立った階級的労働運動再生を担う労働組合再生です。

(いいだ くにお)